ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

斎藤英四郎名誉会長を偲ぶ会

去る４月22日(月)にお亡くなりになられました故斎藤英四郎名誉会長を偲ぶ会が７月９日(火)午後１時より歴代の専務理事の方々などのご出席のもと、渋谷東武ホテルにて開催されました。

故斎藤英四郎名誉会長の業績を偲び、会長就任時の経緯から18年間のさまざまな話題が出席者から披露されました。

出席者

米倉　功　会長
渡邊義英　副会長
冨田寛治　副会長
山下　泉　副会長
大野金一　監事、元専務理事
安藤純光　参与、元専務理事
中澤重夫　参与、前副会長、元専務理事
市原則之　ＪＯＣ常務理事、前専務理事
竹野奉昭　監事、元男子ナショナルチーム監督
杉山　茂　エグゼクティブアドバイザー、元常務理事
南木貞夫　スポーツイベント社社長
大西武三　専務理事
川上憲太　常務理事

大西専務理事（趣旨説明）

斎藤名誉会長には、18年間の長い間に亘り影に日向に変わり無く絶大なるご支援を頂いてきまして、私達としては、本当に感謝いたしてきたところです。早いもので、４月22日お亡くなりになられて２ヶ月半が経ってしまいました。私達としては、どのように対処するかを検討いたしてまいりましたが、会長、副会長、また専務理事経験者の方々、また、斎藤英四郎名誉会長にご関係の深い方などにお集まり頂き、斎藤名誉会長のご遺徳を語ることで、偲ぶ会を開催する運びとなりました。

また、ご遺影を前にして、現在日本協会が抱える様々な問題に対してご意見を伺えればと存じています。

（黙禱）

米倉会長挨拶

資料を拝見して色々と思い出しておりますが、昭和59年に、ちょうどどこかでパーティーをやっている時、斎藤さんから呼ばれまして、学連の会長をやれという話がありました。私は斎藤さんに、「私がやっていたのはバレーボールですよ、何かのまちがいではありませんか」とお答えしたのですが、「スポーツの精神は皆同じだ。やってた奴がやるのが一番良いのだ」と言われました。当時私は現役の社長でありまして、大変忙しく朝昼晩晩とスケジュールが詰まっており、伊藤忠商事じゃなくて、胃と腸商事だなと笑って居りました。(笑)同業他社の現役社長が過労で倒れましてこれは危ないなと思っていたところで、大分斎藤さんに抵抗したのですが、斎藤さんと私は経団連、日米経済委員会、日豪経済委員会など多くの係わり合いの中で、親分と子分の様な関係であり、とても断れませんでした。しかし誰か筋書きを書いた人物がいるには違いないと思っておりましたが、たぶんこの中においでになるとは思いますが、(笑)とにかく断れないということで、昭和59年にハンドボール協会とご縁が出来たそもそもの始まりになります。振りかえってみますと、もう18年も経ったなと感慨深い思いがいたします。

斎藤さんは心の広い人で、しかも人の話はよく聞き、最後にはご自分の立場をきちんと言われる。斎藤さんがハンドボール協会のみならず、日本の政財界、運動業界に果たされた功績は、ご承知のとおり非常に深いものがあります。あらためてご恩を思い感謝する次第です。

(献杯) 渡邉副会長

日本ハンドボール協会の履歴を見ますと、斎藤会長、名誉会長の時代にはいろんなことがあったと思いますが、日本ハンドボール協会がいろんな難局を乗切って行けたのも、斎藤名誉会長のおかげであると思っています。今日他にもいろんな協会がありますが、どうにかこうにか日本ハンドボール協会が運営できるのも、斎藤名誉会長のおかげであると思います。

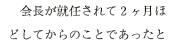
これから、いかにハンドボールがポピュラーな人気のある、そして強いスポーツに成って行くかが課題であります。この意味で、斎藤名誉会長に天国から見守って頂ければ、そして更に、ご指導頂ければと思います。

大西専務理事：斎藤名誉会長は昭和52年に会長になられましたが、私もちょうどその時に常務理事をやらさせて頂きました。それから実に長いのですが、いつも末端の席にいたものですから直接的な接触は、ここにおられる方のほうが多いと思います。斎藤名誉会長とお話をしたとき非常に良く覚えている事は、200位の役職を持っているので大変に忙しいということでした。そのような忙しい中で私達と接していてくださるのが分かるのですが、ある時、参宮橋の新しい新日鉄の建物にお招き頂きまして、その明るくて包容力のある人柄に触れる事が出来ました。

一番覚えている事は、東ドイツナショナルチームが来た時ですが、「大変難しかったんだけれど、これは僕がホーネッカー君に言ってマネージメントしたんだよ。これは僕の手柄だよ。」と言われたことです。まさにスケールは非常に大きい，国際的に活躍なされている方だと感じました。いつも大野さんからは、非常に立派な方を上に頂いているのだから、しっかりがんばらなければいけないと言われていました。

接点はそんなに沢山あったわけではありませんが、非常に明るく人柄の良い会長さんのもとで仕事ができた事を幸せに感じています。

安藤元専務理事

斎藤会長が就任されました時、私も協会の役職にいまして、日本ハンドボール協会が一つも二つも大きくなったように感じたことです。

会長が就任されて2ヶ月ほどしてからのことであったと思いますが、常務理事が招かれてご馳走になったことがありました。私は他にはずせない用事がありまして遅参いたしましたが、会長に席を立たれて迎えていただき、先に手をついてご挨拶をいただいたときには、一瞬頭の中が真っ白になりました。その時、会長の人柄の一端に触れたのですが、このような会長が就任されるのだから、我々もしっかりやらなければならないと強く感じました。その時の光景は今でも鮮明に浮かびます。

私は、ハンドボール以外の席でも会長に何回かお会いしておりまして、そのたびに暖かいお言葉をかけて頂いておりました。いつお会いしてもお元気で、「まだゴルフは、ワンハーフやるんだよ。」と仰っておられました。しかし人生には限りがありまして、今回残念な事にはなりましたが、斎藤名誉会長には末永くハンドボール協会の行く末を見守って頂きたいと思っています。

川上常務理事：今のお話は、斎藤名誉会長がわざわざ迎えられたという感じなのでしょうか。

安藤：奥の部屋が席で、手前に部屋があって、そこまで出てこられて「私が斎藤でございます」とご挨拶をいただいたんです。本当におどろきました。「実る稲穂は頭を垂れる」ということであろうと思います。

新日鉄の三谷寮にも思い出があります。今でも私の宝物として我が家のメインルームに飾っておりますが、日本棋院の二段の免許をいただきました。会長は日本棋院理事七段と聞いておりました。全国理事会の後の会長招待の会食の折、会長から「囲碁をする人はいないか」とのお尋ねがあり、私が手をあげると、「福田君と対戦してごらんなさい、私が見てその力があれば初段を進呈しましょう。」と言われ、三段の福田さん（秘書）に2目を置いての対戦をしました。大石が追われて碁盤の外まで逃げ出したくなった碁でしたが、ついに逃げ切って勝つことができました。会長は終始見ておられ、かねてから欲しかった初段の免許をいただき大変な喜びでした。

その後も、「安藤さん碁をやってますか。」と声をかけていただき、翌年再び会長の前で福田さんと、対戦いたしました。このときは会長は先に席を立たれましたが、あとで2段の免許状をいただきました。

大野監事

私が常務理事になったのは昭和48年ですが、ハンドボール協会を財団にしようという話しがありまして、私はその頃からその仕事を始めました。斎藤会長が昭和52年に就任される3年ほど前から財団化の話があったのですが、日本協会はイスラエルが来た時、公開にすると安全が確保できないと言う事で例の密室試合があって赤字が累積していました。地方協会からも穴埋めをして貰うということで、とても財団化と言う状態ではありませんでした。やっと赤字を埋めて財団化を進めようかというころでした。この時に新日鉄の社長になったばかりの斎藤さんを、大同の林達夫さんに頼んでハンドボール協会の会長にお願いしてなって頂きました。前会長の田村さんも辞意を表明されていたこともありして、たまたまそこに財団化の話が重なって、その旗振り役をして頂こうということでした。

財団化には3,000万円という基金が必要でしたが、昭和53年に募金の目標を3ヶ年で5,000万円と設定し、取り敢えず新日鉄から200万円、林さんのところは100万円拠出して頂き、後は日本リーグのオーナーの方々に斎藤会長から直に呼び掛けて頂き、お願いしました。その他地方協会や連盟にも拠出してもらいましたが、纏まったお金はそこが中心でした。それからいろんな賛助，協賛がありました。そのようなところから協力をして頂いて、予定より1年くらい早い昭和56年に財団設立に至りました。

よく評議員会などでは、どうして会長が出てこないかという声がありましたが、評議員会は非常に長く、細かい話で5時間もかかるわけでして、そのような中に2時間も3時間も経団連の会長を置くわけにはいかないんです。評議員会は年に一回の総会ですので、もっと基本的な大きな議論をすべきでありまして、そうすれば斎藤名誉会長も、米倉会長もご出席なさると思います。そういう意味では、斎藤名誉会長も日本リーグのオーナーに呼び掛けるとか、ポイントポイントでは時間を割いて頂いておりました。先ほど安藤さんが仰ったような三谷寮のようなところでは、時間をかけて議論をすれば良いと思います。斎藤さんは、我

々のような中小のハンドボール協会を良く面倒見てくれたと思います。

私も常務理事の時代から、新日鉄の社長室に20回ほど通って色々お願いをしていましたが、先ほど安藤さんが仰ったように本当に入り口まで迎えに来てくださるし、帰る時にはお土産をくださいまして、エレベーターのところまで送ってくださるというような、本当に気さくに、親身になってハンドボールの事を考えてくださいました。

中澤前副会長

斎藤会長の時代には、荒川さん、大野さん、安藤さんと私の４世代だっただろうと思います。常に温厚で人の話をよく聞いてくださるかたで、短い時間でしたけれども丁寧に聞いて頂きそれなりの指針を与えて頂いたと思っております。

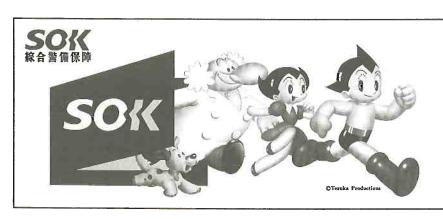
先ほど米倉会長から斎藤会長に言われて学連の会長になられたという話がありましたが、実は私が学連の理事長をやっている時に、その時の大野専務理事に相談して第３者的にマクロな立場で見て頂ける経済界の会長がほしいとのことで、２人で斎藤会長のところへ相談に伺いました。会長は快く会ってくださいましたが、候補者を立てて来るように言われました。そこで経済界の東大のＯＢに相談したところ、米倉さんの名前が挙がり、社長に成ったばかりで一番お若いし、長く面倒を見てもらえそうだということで斎藤会長からお願いすることにしました。斎藤会長は即時に電話をされましたが、お留守のようで連絡が取れませんでした。とにかく家で待つようにとのことでしたが、驚くかな翌朝８時過ぎに電話が来まして、ある丈の書類を持って直ぐに米倉さんに会うようにということでしたので、伊藤忠に飛んで参りましてお願いしますと最敬礼した訳です。斎藤会長は米倉現会長に対して、これからのホープという見方をされていたと思います。それだけに学連はともあれ、米倉会長に日本ハンドボール協会の会長に成って頂いたのはありがたい事だと思います。

斎藤会長は、国体にはなかなか時間が取れずにご出席なされなかったのですが、山形国体には初めて都合をつけられてご出席なさいました。開催地の市長さん達と一席設けようということになり、東根の市長が山形市内に席を設けたと思います。私は斎藤会長を玄関でお迎えし、宴席にご案内したのですが、まず主賓席と反対方向に行かれて、市長の後ろに回り手をついてお世話になりますと頭を下げられました。市長から助役からみんな飛びあがってしまいました。(笑)東根のみなさんはほんとうにびっくりしたようです。斎藤会長にはこんな面があるのだとより一層イメージを深くしました。

斎藤会長には熊本での世界選手権の時にも、渡邊副会長、湧永製薬の湧永儀助社長、私とで相談に伺ったのですが、ハンドボール協会としては無理ではないか、実施するなら全体で一致団結してがんばってください、との言葉を頂いた記憶がございます。

山下副会長

私と斎藤会長とのつながりは、理事になったのが平成４年くらいですので一番短いと思います。その前から広島でバルセロナ予選のアジア選手権を開こうということで、荒川先生から言われ89年の北京のアジア選手権の視察に行きました。行きましたら急に壇上に挙げられまして、広島がアジア選手権を受けたと発表され、やむなくアジア選手権を開催しなければならなくなりました。

日本協会の人に話をしましたら、お金の問題も出まして、１億７、８千万円必要だということだったんです。渡邊副

会長と湧永儀助社長に相談して、どのように資金集めをしたらよいかお伺いしました。とにかく日本リーグにも頼むから、広島で半分くらい集めて欲しいとのことでした。その時に一番最初に日本リーグのオーナー会議を開催したのが、経団連の会議室でした。その時のオーナー会議はほとんどのオーナーが出席されていましたが、斎藤会長が頭を下げて「日本ハンドボール協会が始まって以来の国際大会で、何とか成功させなければならい。宜しくお願いする。」と呼び掛けられました。おかげさまで、熊本の世界選手権ほどではないですが、大観衆を集め、4,000万円ほどの収益を挙げ大会は大成功に終わりました。

広島のアジア大会の時には1日だけお見えになりまして、熊本の時もそうでしたが、要所要所の挨拶をして頂きました。国際大会においで頂けるのは光栄に思いますし、斎藤会長のおかげで損失を出すこともなく成功させることが出来たと感謝しております。

個人的には新日鉄の広島支店と取引がありまして若干の認識はあるのですが、広島の新日鉄の関連取引先を紹介頂き、直に電話を入れておいて頂きました。

市原JOC常務理事

私が斎藤会長に初めてお声をかけて頂いたのは、84年のロスアンゼルスオリンピックの壮行会の時でした。監督の私に挨拶を求められましたので、悲壮感を込めたご挨拶をさせて頂きましたところ、会終了後、斎藤会長に呼び付けられて「君の挨拶は固すぎる。固いと選手が暗くなる。暗さからパワーは生まれないぞ。これで選手に美味いもんでも食わし明るくして、大きなパワーを出させなさい。」といわれ1,000ドル戴きました。その後の私はこの時のご忠告を肝に銘じ、何事においても極力明るく舞うように心掛けております。

1991年の広島でのアジア選手権大会兼バルセロナオリンピック予選会は、地方が初めて招致した総合大会として、企業チームも積極的に特別協賛金を拠出し念願のオリンピック出場に賭けました。結果は男女共惜しくもオリンピック出場は果たせませんでしたが、大会運営は広島県協会の皆さんの努力で大成功に終わりました。そこで、日本協会は広島大会の成功を糧に1997年の世界選手権を熊本に招致致しました。

しかし、当時の実業団連盟の湧永儀助顧問は「日本協会は財政的役割を担う実業連盟に事前に相談なしで勝手に大会を招致したが、果たしてお金の算段は出来ているのか。」と異議を唱え、事の真意を斎藤会長に質そうということになり、私は湧永顧問に随行し斎藤会長を訪ねました。

ところが、斎藤会長もご存知なく「こんな大きな大会を会長の私に相談なしで決めるとはなんたることか」とことの外ご立腹でありました。

しかしながら、流石だなと感心したのは「でもいったん決めたことだから、外国に対し恥を掻かないように国内のハンドボール界が一致団結し事に当たらなければならない。それには世界選手権のための特別委員会をつくりオーナーの皆さんにそれぞれを分担してもらいなさい。」とご提案をいただきました。そして早速オーナー会議が開催され自ら調整役となられ、オーナーの皆さんを上手く纏められました。この時ご提案頂いた日本リーグチームの自助努力による「オーナー会議特別委員会」は現在も大きな遺産として残り、日本協会の諸事業を強力にバックアップしていただいていることは大変有り難いことだと思います。

その後名誉会長になられてからも湧永顧問や草井会長と私は何かにつけてお訪ねしました。その時には、斎藤会長はパンがお好きだときいておりましたので、銀座のパン屋さんでパンを買ってお昼休みの20分くらい前によく訪ねたものです。そうした中のある時、あの笑顔の優しい温厚な方が、何かの事で40分間位、控え室の私どもに聞こえるくらいの大声で誰かを叱っておられたことにも出会い、こんな厳しい一面もおありなのだと驚いたこともありました。また、長野オリンピックの開会式が終了した直後エレベーターの前でお会いしましたが、組織委員長として開会式を無事務められた後の安堵のお顔は今でも鮮明に覚えております。その後、ご不幸にも奥様に先立たれさぞかしお力を落としておられるのではと心配いたしましたが、米倉会長の叙勲を祝う会で乾杯の音頭をとられまして、「これだけで終わると思ったら大きな間違い」と言われ、いつものように長々とお元気にお話をされ、これなら大丈夫とみんなを安心させられましたことも記憶に残っております。私はハンドボール以外の場所でも斎藤名誉会長にお会いする事が多々ありましたが、何事もにこやかにお声を掛けていただき、大きく包み込んで頂くようで心を暖かくいたしておりました。昨今、物事の本質に背き単なる好き嫌いだけの判断で、競技者の存在をも忘れて醜い争いをしている組織役員を見るにつけ、我々指導者はもっと心を広く持たなければと大いに反省させられます。私の専務理事時代は力不足を補うため、いろいろな方にアドバイス頂きたく、杉山さ

んをはじめ沢山の方にアドバイザーをお願いしたり、歴代の専務理事会も開催して教えを乞ったりしましたが、今にして斎藤名誉会長の偉大さをつくづく感じる次第です。

竹野監事

私は斎藤名誉会長とはあまり接点がございません。私が現役のころ、モントリオールのオリンピックの翌年から会長になられました。私が全日本監督時代に、林達夫さんが団長として遠征によく同行されましたが、その時今度新会長には、新日鉄の幹部の方になっていただけそうだとよく話しておられました。林さんは、新日鉄のトップは難しいけれど、斎藤さんなら適任であろうと話されていましたが、日本協会会長に就任されるのが決まったあとすぐに新日鉄の社長に成られたということを聞いて大変にびっくりしたことを覚えています。

また斎藤さんが鉄鋼関係の国際会議で東ドイツを訪問されたとき、たまたまハンドボールの話になり、斎藤さんが、「私が日本協会の会長をしている」と言ったら、東ドイツの首相がびっくりしたということを聞いております。東ドイツと日本ではハンドボールの競技としての位置付けが大きく違うということをご存じなかったとは思いますが、東ドイツの来日は斎藤会長の力が大きかったと思います。

私が斎藤会長とお話をしたのは、モスクワオリンピックボイコット事件の時が最初で最後でした。この時、スポーツに理解のある、心の広い方だなと感じました。日本ハンドボール界は、このような立派な新日鉄トップの方が会長になられたのだから、感謝の気持ちを持って、もっとプライドを持って行動していかなければならなかったと反省するべきではないかと思います。

杉山エグゼクティブアドバイザー

私は、斎藤会長といろんな立場でお目に掛かりながらお話をしたのは5，6回で、その多くは、長野オリンピックのテレビの仕事をした時でした。実は会長にお金をせびったんですね。当時斎藤会長は、長野オリンピック組織委員会会長で1,000億円くらいの予算でなさっていた。私の仕事が250億くらい掛かったんです。どうしてもそのお金を頂きたいということで、古橋さんや堤さんや斎藤会長などとお話して、その代わり長野オリンピックはテレビの力で確実に成功させますというようなお話をしたことがあります。

その時に、私、ちょっとハンドボールをやっていましたということを使わさせて頂きました。斎藤会長とがぜん15分位ハンドボールの話で盛り上がり、あそこは金がないんだよという話しになりまして。(笑)

その時に斎藤さんがヨーロッパなどではスポーツのためにくじをやっているだろうという話しをされたんです。日本ではすでに今のスポーツ振興くじが賛否を問う時期だったんです。竹野さんが仰るように、斎藤さんがスポーツにお金がかかるというのは、長野とハンドボールしかご存じなかった筈なんですが、ともかくスポーツのためにお金を、と心にかけておられた。

そんなことで、私はハンドボールの斎藤さんというより、長野の斎藤さんに大きな気持ちを頂いて、200億円近いお金を掛けていただきレベルの高い仕事をさせていただいたことが一番の思い出です。

ハンドボール協会では、いま斎藤会長を中心とした履歴を拝見しまして、この中で斎藤会長を語る時に欠かせないのは、林達夫副会長と荒川清美専務理事だと思うのです。故人のご遺徳を傷つけるものではないのであえて申し上げますが、私の記憶では、確か斎藤会長は最初大同特殊鋼の社長ということでお名前が挙がっていて、それを林さんと前の会長であった田村正衛さんが是非にということで、新日鉄を経由して斎藤さんとの橋渡しを林さんがなさったと記憶しております。

当時新日鉄の重役は、稲山さんがホッケー、平井さんがサッカーなどを担当なさり、日本のスポーツに様々な形で後方支援していました。企業の社会還元の理念としてのスポーツが位置づけられていた会社だったような気がします。

ハンドボール協会の会長に就任された後、新日鉄、経団連とステップを踏まれたような気がします。この事情は、大野さんにフォローしてもらわなければなりませんが。

その頃、私は76年のモントリオールオリンピックが、日本のハンドボールのある時期の集大成と感じていました。ですから77年に斎藤新会長を迎えた時に、日本のハンドボール界をすべて刷新すべきだと思っていました。76年のモントリオールオリンピックに男女の代表チームが出場し、その年の3月に全国高校選抜が始まり、モントリオールを挟んで日本リーグができたということは、とても画期的な年だと思います。これを機会に旧態依然としたメンバーを

刷新し、全部新しいメンバーにするという意見を持っていました。旧メンバーの中で一人だけ残るのは荒川さんだと、話したことがあります。

そして、荒川さんといろんなお付き合いをさせて頂く中で、私はこのことだけは斎藤さんの意見を絶対聞いてから判断したほうがいいと申し上げたのが、１回だけあります。それは、80年のモスクワオリンピックに棄権するかどうか決断する時でした。会長の意見がない競技団体くらいないものはないと、荒川さんに申し上げました。荒川さんが斎藤さんをお尋ねになったかどうかは、私は最後まで荒川さんから聞いておりません。でも荒川さんは斎藤会長に、お尋ねにならなかったんじゃないかと思う節があります。それは荒川さんご自身が西ドイツ崇拝者で、西ドイツが４月にボイコットをしたとたん、日本のハンドボールは西ドイツに倣えとすでに決められていましたから、きっと斎藤さんにはご相談なさらなかったと思います。相談なさっても日本のハンドボール界が、松前さんや松平さんなどと並んで、参加すべき荒川さんと斎藤会長のご意志をいつかお尋ねできると思いながら時間が経ってしまい、お２人とも他界されてしまったことが、残念に思えて仕方がありません。

南木スポーツイベント社長

日本ハンドボール協会の履歴を見させて頂いて、ちょうど私どもの雑誌も昭和52年にスタートいたしました。第１回の高校選抜大会、その前の年に始まった日本リーグを初めとしまして、ロサンゼルスオリンピックなど各大会を、一ハンドボールマスコミということで取材させて頂きことを、大変誇りに思い、非常に印象深く思うところです。

先ほど竹野さんからお話がありましたが、斎藤会長がヨーロッパに行かれた時、経団連の会長よりも、ハンドボール協会の会長のほうが通りがよかったよ、仕事の方も進んだよ、というお話しを聞いて非常に嬉しく思いましたし、これは私どものハンドボールマンに対する一つの叱咤激励ではないかなと思いました。

東ドイツ招聘、ジャパンカップ、中国などとの交流のスタートなど、非常に節目節目で重要な活躍をなされ、印象深く思います。斎藤会長には末永くハンドボールを見守って頂きたいし、私どももがんばりたいし、微力ながらハンドボールに貢献したいと思います。

冨田副会長

私は副会長として新しいものですから、斎藤さんにお会いしたのは２度だけなんです。１度は大変苦い思い出で、斎藤さんに大変ご迷惑をお掛けしたんですが、私が大同のハンドボール部長だった時、社員が不祥事を起こしましてそれがオリンピック選手だったということで新聞に大きく取り上げられた時です。当時専務理事であった大野さんにも大変なご迷惑をお掛けしたんですが、私ハンドボールの責任者として、斎藤さん、日本体育協会の柴田会長にお詫びに伺ったんです。その時は斎藤さんは、今後このようなことがないようにしろと一言だけ仰いまして、あとは特に何もありませんでした。

先ほどの話にも出ていましたが、斎藤さんが会長になられるのを画策したのは、私どもの林達夫でございまして、稲山さん、平井さんがすでにすでに他の協会の会長やっておられたため、次の斎藤さんに協会の看板としてお願いしたようです。当時私は課長クラスでまだ若かったのですが、そんな話しは聞いておりました。

２度目は、ハンドボール協会の副会長になったときに、ご挨拶に伺ったときでした。その時には、昔の話は一切なく、ちょっと手伝ってくれと言う話しでした。

斎藤さんは、非常に明るく、しかも営業マンだった事もありまして非常に気配りをされる方だと諸先輩方から聞いております。また、米倉会長も斎藤会長のお声掛かりで、ハンドボール協会の会長になっていただいたと言う話しを聞いて、ハンドボール協会としては、大変幸せだったと思います。

渡邊副会長

私は斎藤会長の時代の３年くらい副会長でして、新日鉄には正副会長会議で何度か行きました。そういう時には斎藤会長に、やあよく来た、ときさくに声をかけていただきました。いつだったか正副会長会議でうなぎをご馳走になったことがありまして、一通り終わったと思ったらうな重が出てきて，これを食べないと帰れないと斎藤さんが言うんですね。これが上に乗っているのがまた中にもうなぎがあるんですね。斎藤さん特有

のうなぎだそうで、そんなんでおなかが一杯になってしまったことを覚えています。とにかく、あれだけ大変な健啖家だと思いました。私の父の13回忌の時も最後まで奥で食事をされていました。老いてもあれだけの健啖家ですからバイタリティーもそれだけすごいのだろうと思いました。

先ほども出ていましたが、熊本の世界大会の金の問題は大変心配されておりまして、私に会うたびに、大丈夫か大丈夫かと聞かれていました。最後に熊本の世界大会に一回だけ一泊で来られた時、とにかくよかった、本当によかったと言われていたあの顔は，印象深く覚えています。

私は斎藤会長に一回だけかなり怒られたことがあります。それは荒川先生が退任される事を全く知らなかったということで，次に会ったときに大変怒られたことで記憶にあります。

⊙ 追悼の辞

斎藤英四郎名誉会長のご逝去を衷心よりお悔やみ申し上げます。

私の日本協会での短い理事在任期間（昭和54年～58年）斎藤会長と一緒に仕事が出来ましたことは私の人生で特に栄誉に思う一時期でございました。

名誉会長は、18年間という長い間（昭和52年～平成6年）日本ハンドボール協会会長としてご就任なさいましたが、日本経済界は勿論日本国における大変な重鎮であられる方なので、協会役員は、会長の顔を汚してはならないという雰囲気が強く働いていたように思います。（しかし、記憶をたどってみると、ハラハラするような事もあったように思います。）

会長はよく話しておられましたが、ハンドボールはどうして有名にならないのだろう、日本スポーツ界の桧舞台にたたねばいけないね、と。

斎藤会長とお目に掛れることは数少なかったのですが、そんな中でも協会の役員会の後で、慰労会を催して下さるということで新日鉄の寮に招待してくれたことがございました。その折、ビールで乾杯と言うことになり、あの頃はまだ瓶ビールでグラスに注いで飲む習慣が強かったと思いますが、缶ビールが皆に配られ、缶ビールで乾杯となりました。そして、斎藤会長は、この缶ビールのアルミニウム缶は新日鉄でつくったものだと話されたことをよく憶えております。

斎藤会長の飲みっぷりも話っぷりも豪快そのもので、一緒にいるだけでとても心が華やぎ痛快な思いをしたことを忘れません。また、麻雀の話になり会長は日本麻雀連盟の会長で、麻雀の段位を授与するのは私だよと言うことを楽しげに話しておられたことを今でも思い出します。

まだまだお元気でいてほしかったと強く思います。

６月４日の「お別れの会」に出席させていただき、献花台に花を捧げつつ、「会長、大変有難うございました。どうぞ心安らかにお休み下さい。」とお祈り致しました。

合掌

㈶日本ハンドボール協会事務局長　西村孝雄

▼（財）日本ハンドボール協会　履歴

年	名誉会長	会長	副会長	副会長	副会長	専務理事	主な出来事
昭和52年　第21期		斎藤英四郎	保坂周助	林　達夫	徳永陸繁	荒川清美	第１回高校選抜大会
昭和53年							
昭和54年　第22期							
昭和55年							財団設立発起人会（代表斎藤英四郎）
昭和56年　第23期							日本協会財団法人化
昭和57年（財団１期）				荒川清美			
昭和58年　第２期			武田喜三			大野金一	
昭和59年							ロサンゼルスオリンピック
昭和60年　第３期							
昭和61年						安藤純光	
昭和62年　第４期			渡邊和美		盛田正明		日本協会創立50周年
昭和63年							ソウルオリンピック
平成１年　第５期			立石孝雄				
平成２年							
平成３年　第６期				渡邊佳英	米倉　功		アジア選手権広島で開催
平成４年						中澤重夫	
平成５年　第７期							
平成６年							第12回広島アジア大会
平成７年　第８期	斎藤英四郎	米倉　功					
平成８年							
平成９年　第９期							男子第15回世界選手権大会（熊本）
平成10年			冨田寛治		中澤重夫	市原則之	斎藤名誉会長オリンピックオーダー金章
平成11年　第10期							
平成12年							
平成13年　第11期					山下　泉	大西武三	
平成14年							

平成14年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第53回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子試合結果

1日目 8/2 (金)	2日目 8/3 (土)	3日目 8/4 (日)	4日目 8/5 (月)	5日目 8/6 (火)	6日目 8/7 (水)	5日目 8/6 (火)	4日目 8/5 (月)	3日目 8/4 (日)	2日目 8/3 (土)	1日目 8/2 (金)

県立氷見高等学校（富　山）1
県立佐賀農業高等学校（佐　賀）2
県立松江南高等学校（島　根）3
浦和学院高等学校（埼　玉）4
県立羽後高等学校（秋　田）5
県立紀北農芸高等学校（和歌山）6
市立岐阜商業高等学校（岐　阜）7
県立青森商業高等学校（青　森）8
県立伊奈高等学校（茨　城）9
県立倉敷青陵高等学校（岡　山）10
県立松山工業高等学校（愛　媛）11
大分国際情報高等学校（大　分）12
県立添上高等学校（奈　良）13
北陸高等学校（福　井）14
県立国分高等学校（鹿児島）15
東京学館高等学校（千　葉）16
修道高等学校（広　島）17
学校法人石川高等学校（福　島）18
國學院大學栃木高等学校（栃　木）19
県立池田高等学校（徳　島）20
函館大学付属有斗高等学校（北海道）21
岡崎城西高等学校（愛　知）22
府立洛北高等学校（京　都）23
県立那覇西高等学校（沖　縄）24

25 横浜商工高等学校（神奈川）
26 県立高知南高等学校（高　知）
27 県立小松工業高等学校（石　川）
28 県立小林工業高等学校（宮　崎）
29 県立下松工業高等学校（山　口）
30 育英高等学校（兵　庫）
31 県立守谷高等学校（茨　城）
32 県立彦根翔陽高等学校（滋　賀）
33 県立清水東高等学校（静　岡）
34 長崎日本大学高等学校（長　崎）
35 県立不来方高等学校（岩　手）
36 明星高等学校（東　京）
37 長野県屋代高等学校（長　野）
38 此花学院高等学校（大　阪）
39 県立境港工業高等学校（鳥　取）
40 県立富岡高等学校（群　馬）
41 九州産業大学付属九州産業高等学校（福　岡）
42 県立利府高等学校（宮　城）
43 県立東根工業高等学校（山　形）
44 県立四日市工業高等学校（三　重）
45 駿台甲府高等学校（山　梨）
46 県立香川中央高等学校（香　川）
47 県立巻高等学校（新　潟）
48 熊本市立千原台高等学校（熊　本）

優勝　氷見高等学校

平成14年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第53回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子試合結果

1日目 8/2(金)	2日目 8/3(土)	3日目 8/4(日)	4日目 8/5(月)	5日目 8/6(火)	6日目 8/7(水)	5日目 8/6(火)	4日目 8/5(月)	3日目 8/4(日)	2日目 8/3(土)	1日目 8/2(金)

優勝　洛北高等学校

No.	学校名	都道府県
1	県立陽明高等学校	沖縄
2	県立巻高等学校	新潟
3	文化女子大学付属杉並高等学校	東京
4	県立福島西高等学校	福島
5	初芝橋本高等学校	和歌山
6	暁高等学校	三重
7	県立桐生西高等学校	群馬
8	県立倉敷中央高等学校	岡山
9	県立大分鶴崎高等学校	大分
10	県立池田高等学校	徳島
11	県立添上高等学校	奈良
12	県立伊奈高等学校	茨城
13	宮崎女子高等学校	宮崎
14	県立高山高等学校	岐阜
15	県立青森中央高等学校	青森
16	県立栃木商業高等学校	栃木
17	高岡向陵高等学校	富山
18	府立洛北高等学校	京都
19	小松市立高等学校	石川
20	聖和学園高等学校	宮城
21	県立華陵高等学校	山口
22	純心女子高等学校	長崎
23	県立高知南高等学校	高知
24	昭和学院高等学校	千葉
25	桜花学園高等学校	愛知
26	県立松江南高等学校	島根
27	埼玉栄高等学校	埼玉
28	長野県屋代高等学校	長野
29	市立守山女子高等学校	滋賀
30	筑紫女学園高等学校	福岡
31	県立水海道第二高等学校	茨城
32	県立境高等学校	鳥取
33	県立東根工業高等学校	山形
34	県立神埼清明高等学校	佐賀
35	県立今治北高等学校	愛媛
36	北海道釧路湖陵高等学校	北海道
37	県立松橋高等学校	熊本
38	夙川学院高等学校	兵庫
39	県立静岡城北高等学校	静岡
40	県立吉田高等学校	山梨
41	県立賀茂高等学校	広島
42	県立大曲農業高等学校	秋田
43	横浜創英高等学校	神奈川
44	県立盛岡第二高等学校	岩手
45	県立鹿児島南高等学校	鹿児島
46	県立福井商業高等学校	福井
47	県立香川中央高等学校	香川
48	大阪市立桜宮高等学校	大阪

第9回アジア女子選手権大会

日本は第4位に終わる　—世界選手権大会出場ならず

第９回アジア女子選手権大会は、７月25日から８月１日までの８日間、カザフスタンのアルマイトで開催された。日本のほか、開催地・カザフスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、チャイニーズタイペイ、韓国、中国の７ヵ国が参加して行われた。A、Bのグループに分かれての予選リーグ、決勝トーナメントで大会は行われ、地元カザフスタンが優勝を飾った。

３位までに入り世界選手権大会出場のキップを手に入れたかった日本だが、３位決定戦で中国に敗れ、世界選手権出場は果たせなかった。

■ 7月26日(金)

日本	22	13−8 9−9	17	チャイニーズタイペイ

（戦評） ゲームスタート金城の先取点でリズムをつかむかにみえたが、オーバーステップ等でリズムを崩し、前半15分で３−４と１点リードされ厳しい戦いとなった。しかし、山田の７ｍスローで同点とし、田中音のカットイン等でリードしてチームに落ち着きがみえ、13−８で前半を終了する。

後半、スタート時ディフェンスのがんばりで速攻が出始めるが、シュートミスで再度自分達のリズムを崩し逆にタイペイの逆速攻を受け、後半は９−９のゲームとなった。第１戦を白星でスタートすることが出来たが、基本的なミスをチームから一つでも消し去ることが第２戦の課題となった。

■ 7月27日(土)

日本	53	23−12 30−7	19	ウズベキスタン

（戦評） 昨日のタイペイ戦で基本的なリズムがつかめず厳しい戦いとなって、気持の切り換えが心配であったが、全員が気持ちを切り換えて第２戦に臨んでくれた。前半８分までは得点の取り合いとなったが、ディフェンスのがんばりで、佐久川、河本の速攻でリズムをつかむが、７ｍスローを４本もはずし後半の課題となった。

後半、明日のカザフスタン戦へ臨むにあたり、全員に気をしめて戦うようにと指示するが点数差がつくにつれ単純なミスを連発し反省材料となった。

■ 7月28日(日)

日本	24	10−15 14−12	27	カザフスタン

（戦評） Bグループ最終戦、地元カザフスタンとの戦い、勝って１位で順位決定戦に臨みたいゲームであった。

立ち上がり、カザフスタンの180cmのポストプレーヤーに注意しすぎ、ミドルシュート、速攻でリードされる。攻撃でも相手ＤＦの壁を破ることができず、なかなかリズムがつかめず２−７とリードされたところでＧＫを山下から田中にチェンジした。田中の好守でリズムをつかみ、５−７と追い上げるが、ポストプレーヤーを止めることができず、前半だけで７ｍスローを３本も取られ、10−15で前半を終了。

後半、ＤＦを一線（６−０）に変えて対応したことで、相手攻撃のミスが多発し、速攻、田中英のミドル等で２点差まで追い上げるが、最終的に大型ポストにボールが通り、合計７本の７ｍスローとポストで５点取られ、チームの課題であったダブルポスト対応ができず、Bグループ２位で順位決定戦に臨むこととなった。

■ 7月30日(火)

日本	22	9−14 13−17	31	韓国

（戦評） 開始１分、韓国の先取点でスタートしたが、ディフェンスのがんばりで５分間この１点のみでしのぎ日本も５分に山田の７ｍスローで得点し１−１とする。10分間、山田、田中音で得点しディフェンスでも青戸、大石、藤浦とＧＫ田中麻の活躍で３−３の内容であった。しかし攻撃面で韓国の高い壁を打ち抜けず、前半20分で７−12とリードされるが、ＧＫ田中の好守で得点差がつかず９−14で前半終了。

後半、速攻を主体とするディフェンスシステムに切り換えたことと、全員の走力でディフェンスもupし田中音、山田の速攻で残り10分21−24まで追い上げるが、最終的に長身者のロングシュートを止めることができず22−31で終わった。

明日、世界選手権の最終枠をかけて中国と３〜４位決定戦に臨む。

■ 7月31日(水)

日本	23	10−15 13−14	29	中国

（戦評） 勝つことで世界選手権に出場できる大切なゲームであったが、開始20秒で簡単に先取点を取られ、全員が浮き足だったスタートとなった。常に中国にゲームを支配され、前半は４〜６点のビハインドでの内容であった。ディフェンスで攻撃的なシステムで対応し相手の攻撃のリズムをこわすもののシュートミスの連続で得点が伸びず、ディフェンスでのがんばりに期待するも最終的にポスト、ロングで得点を許し23−29と６点差をつけられゲームセット。

４大会連続で世界選手権に出場していたが、出場を止めたことに対する責任を痛感している。17名の選手たちは本当に最後までよく戦ってくれた。　（監督・西窪勝広）

【最終順位】

１位　カザフスタン	５位　チャイニーズタイペイ
２位　韓　国	６位　トルクメニスタン
３位　中　国	７位　ウズベキスタン
４位　日　本	

第7回アジア女子ジュニア選手権大会
日本は第3位、世界選手権の出場権を獲得

第７回アジア女子ジュニア選手権大会は、７月９日から15日までの７日間、ヨルダンのアンマンで開催された。今回の参加国は、日本をはじめ、韓国、中国、ヨルダン、チャイニーズタイペイの５ヵ国で、総当たりのリーグ戦で戦われた。

優勝は４戦全勝の韓国で、日本は１勝２敗１分けで得失点差で３位となり、世界選手権大会出場の権利を獲得した。

■ 7月10日(水)

日本 23（9－12 / 14－16）28 韓国

（戦評） 伊藤亜のロングシュートで先制し、中盤まで互角の展開であったが、７ｍスローのミス等があり、前半を３点差で折り返した。

後半開始早々韓国らしい攻撃を受け、連続得点を許して、一時７点差まで開いた。その後日本も粘りを見せ、野路のカットイン、伊藤亜のロングシュート、早川の速攻等で食い下がるが、ポイントでの７ｍスローのミス、シュートミスが重なり５点差で終了した。ポイントミスを少なくすれば、勝てるゲームだった。

■ 7月11日(木)

日本 45（23－7 / 22－3）10 ヨルダン

（戦評） 試合開始早々から日本の速攻がよく決まり得点を重ねていく。ディフェンスではポストプレイに徹底するヨルダンの攻撃に出過ぎることで失点する。

後半はディフェンスも安定して、後半19分まで無得点に押さえる。ＧＫ下地のキーパースローからの得点を含めＣＰ全員が得点し、45－10で大勝した。

■ 7月14日(日)

日本 15（8－7 / 7－8）15 チャイニーズタイペイ

（戦評） 立ち上がりからタイペイのスピードある攻撃で０－３とリードを奪われる。日本チームは意識過剰で体が動かない。前半中頃からようやくシュートが決まりだし逆に５－３とリードするが、個人プレイが目立ちなかなかリードを広げられず、前半を８－７で終了。

後半に入り３点を連取して勢いに乗るかと思われたが、14－11からなかなか追加点が取れず、タイペイにじわじわ追いつかれて15－15の引き分けに終わる。本来の力も出せずに終了した。

■ 7月15日(月)

日本 25（8－18 / 17－14）32 中国

（戦評） 試合開始直後から昨日のチャイニーズタイペイ戦と同じ展開で、足が止まり攻撃が単調になり、中国の速攻に走られ前半を８－18と大量リードを奪われ終了する。

後半は立ち上がりから本来のペースを取り戻しディフェンスも１：２：３のシステムが機能し始め、野路のカットイン、早川の速攻、伊藤亜の７ｍスローなどで中国を追い詰めたが、前半の失点が大きく25－32で敗れる。３位を確保し世界選手権の出場権を得る。

【最終順位】

１位　韓国
２位　中国
３位　日本
４位　チャイニーズタイペイ
５位　ヨルダン

第22回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会
男子はラージェスト、女子は筑波学園クラブが優勝を飾る

第22回全国クラブハンドボール選手権大会・東地区大会は、７月27日（土）、28日（日）の両日、福島県本宮町に男子16チーム、女子８チームが集って熱戦を繰り広げた。

「会長杯トーナメント」の男子は、ラージェストと小金クラブの決勝戦となったが、ラージェストが大差で破って優勝を飾った。一方女子は、筑波学園クラブが前半のリードを守ってガビアーノ・チップスを振りきり優勝を飾った。

試合結果

【男子】

⊙会長杯トーナメント

▼１回戦

小金クラブ	19−14	金津クラブ
函工クラブ	26−22	全郡山
46G会	21−20	O・J・C
紫嵐会	28−15	リリオ神奈川G
富岡ハンドボールクラブ	30−25	大曲OBハンドボールクラブ
学石クラブ	19−18	しなのクラブ
日川クラブ	25−22	湖陵クラブ
ラージェスト	21−19	青商クラブ

▼２回戦

小金クラブ	26−10	函工クラブ
紫嵐会	29−９	46G会
富岡ハンドボールクラブ	22−17	学石クラブ
ラージェスト	24−20	日川クラブ

▼準決勝

小金クラブ	31−29	紫嵐会
ラージェスト	26−20	富岡ハンドボールクラブ

▼決勝

ラージェスト	33−16	小金クラブ

⊙町長杯トーナメント

▼１回戦

金津クラブ	25−23	全郡山
OJC	23−20	リリオ神奈川G
しなのクラブ	23−17	大曲OBハンドボールクラブ
青商クラブ	30−23	湖陵クラブ

▼準決勝

OJC	20−18	金津クラブ
青商クラブ	24−19	しなのクラブ

▼決勝

青商クラブ	19−14	OJC

【女子】

⊙会長杯トーナメント

▼１回戦

筑波学園クラブ	18−13	べにばなクラブ
福島クラブ	21−５	函館ホッパーズ
萩江クラブ	19−16	YAM
ガビアーノ・チップス	21−９	遊気クラブ

▼準決勝

筑波学園クラブ	20−７	福島クラブ
ガビアーノ・チップス	19−９	萩江クラブ

▼決勝

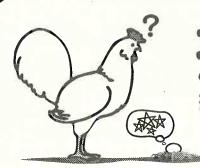
筑波学園クラブ	17−14	ガビアーノ・チップス

⊙町長杯トーナメント

▼１回戦

べにばなクラブ	14−13	函館ホッパーズ
YAM	20−15	遊気クラブ

▼決勝

YAM	20−10	べにばなクラブ

第22回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会
男子は下松クラブ、女子はコスモピッキーズが優勝を飾る

第22回全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会は、7月13日（土）・14日（日）の両日、山口県・徳山市で熱戦を繰り広げた。男子は16チームが参加、下松クラブが下松クラブ２を接戦の末破って優勝。一方女子は８チームが参加したが、コスモピッキーズが徳山クラブを１点差で破って優勝を飾った。

試合結果

【男子】

◆予選リーグ・Ａブロック

ＡＣウインズ 20−15 周南クラブ
周南クラブ 21−17 総社クラブ
ＡＣウインズ 24−17 総社クラブ

◆予選リーグ・Ｂブロック

京すし神崎クラブ 21−15 正強クラブ
下松クラブ２ 26−24 京すし神崎クラブ
下松クラブ２ 24−18 正強クラブ

◆予選リーグ・Ｃブロック

ＰＦ須磨東クラブ 18−16 中央クラブ
下松クラブ 26−16 ＰＦ須磨東クラブ
下松クラブ 20−19 中央クラブ

◆予選リーグ・Ｄブロック

那賀クラブ 18−14 各務原市・ＨＣ
那賀クラブ 29−21 若鮎会
各務原市・ＨＣ 21−18 若鮎会

◆決勝トーナメント

〈準決勝〉

下松クラブ２ 18−17 ＡＣウインズ
下松クラブ 23−14 那賀クラブ

〈３位決定戦〉

ＡＣウインズ 33−20 那賀クラブ

〈５位・７位決定戦〉

京すし神崎クラブ 18−15 周南クラブ
ＰＦ須磨東クラブ 23−17 各務原市Ｈ・Ｃ

※５位　京すし神崎クラブ、ＰＦ須磨東クラブ、
　７位　周南クラブ、各務原市Ｈ・Ｃ

〈９位・11位決定戦〉

総社クラブ 19−17 正強クラブ
中央クラブ 33−11 若鮎会

※９位　総社クラブ、中央クラブ、
　11位　正強クラブ、若鮎会

〈決勝〉

下松クラブ 21−18 下松クラブ２

【女子】

〈１回戦〉

ソニーセミコンダクタ九州 28−10 Ｎ・Ｔ・Ｆ
コスモピッキーズ 31−11 ＭＩＥ・ＨＣ
徳山クラブ 30−15 香川レディース
金曜Ｈ・Ｃ 18−11 山口クラブ

〈２回戦〉

徳山クラブ 22−17 ソニーセミコンダクタ九州
コスモピッキーズ 23−11 金曜Ｈ・Ｃ

〈３位決定戦〉

ソニーセミコンダクタ九州 19−11 金曜Ｈ・Ｃ

〈５位・６位決定戦〉

◆１回戦

香川レディース 20−13 Ｎ・Ｔ・Ｆ
ＭＩＥ・ＨＣ 21−15 山口クラブ

◆決勝

香川レディース 23−12 ＭＩＥ・ＨＣ

〈７位・８位決定戦〉

山口クラブ 12−０（棄権） Ｎ・Ｔ・Ｆ

〈決勝〉

コスモピッキーズ 14−13 徳山クラブ

「基本の大切さ痛感」

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー Free Throw

スポーツ界だけではないにしろ、よく「基本の大切さ」と言う言葉を聞く。ステップアップするためには、土台をしっかり固めていないと出来ない相談である。家づくりのCMでも基礎が固まっていないと災害に弱いといったのがテレビで流されている。何事にも通用することだと思う。

その基礎（基本）の大切さをいやというほど、改めて見せつけられた。日本リーグで４年連続女王の座を守っている広島メイプルレッズの試合である。クラブ化して２年目の今シーズンは、昨シーズン限りで廃部になった立山アルミからの移籍を含めて７人を大量補強。彼女たちも基本習得に懸命である。

７月、夏の真っ盛り。シーズンが後半に集中しているため、本格的な練習にまでにはいたっていない時期だった。しかし、それにも関らず「ここ一番」のプレーに他のチームの選手より一味違った趣があった。

イズミ時代から世界の女王・林五卿監督の練習のきびしさには定評があるが「それだけのことはある」とうならせるプレーを随所に発揮した。「練習で泣き、試合で笑おう」が指導の最大のテーマだが、そうした指導方針が選手の身体にしみついているのだろう。

一部混成のメンバーだったから、なおさら目に付いたのかもしれない。「あと一歩」のプレーが出来るか出来ないかが、勝負を分ける。涙を流し続けてものにした自信と信頼関係のたまものだろう。

基本がしっかりしていればこそ、次へのステップにつながる。闘志も沸くだろう。勝負への執念も身につくだろう。粘りあるプレーも…。どこか他のチームとの意識の違いを見せられた思いがした。その結果がリーグを制し、全日本総合選手権や実業団選手権での好成績につながっていると実感させられた。

物事は一気には解決しない。目標へ向かって着実に力を蓄えるには意識の統一も大切だ。そしてトレーニングを重ね、戦いではつねに個々が100%の力を発揮できるような闘志と自信を植え付ける。簡単なことではないが、それが多くのファンを魅了することにつながるし、自らの喜びにも結びついてくるはずだ。

基本をどれだけ習得しているか。そのわずかな差が積み重なって、60分の戦いのあとに嬉し涙か、悔し涙になって現れるのだろう。女王の陰に潜んでいるのは、その「わずかの差」と「極限への挑戦」の合わせ技ではないかという気がしてならない。

大阪で車椅子ハンドボール体育実技研修会開催

京都府ハンドボール協会副会長　小西博喜

去る6月12日（木）平成14年度大阪府立・市立・私立高等学校保健体育研究会主催の車椅子ハンドボール実技研修会が、ファインプラザ大阪（大阪府立障害者交流促進センター）で開催された。受講者は52名で、ほとんど保健体育教員であった。研修会は、車椅子操作技術の指導とハンドボールの簡単なルール説明を兼ねての実技指導で行なわれた。

講師は、岩崎剛氏（豊中市立障害者福祉センター相談員・ソウルパラリンピック車椅子スラローム銅メダリスト）・大門雅人氏・長野弦太氏（ファインプラザ大阪専門指導員）、外来講師として岡本克彰氏（元（財）日本協会審判部公認審査委員）・小西博喜（近畿福祉大学教授）が招かれた。

さすがに体育教員であり、先生達の実技は平素卓越した技能の持ち主ばかりで、ゲーム展開には全く支障はなかった。ただ、ルールに慣れることが先決であり、車椅子の操作技術が上達すれば高度のゲーム展開が期待されることは間違いない。とりわけ、実技の中でもスタートダッシュ、走行中急な方向転換には戸惑いが出て、勢い余っての転倒シュートは今後の練習課題になった。また、シュートをねらうコースも慣れないせいか、シュートに単調さがみられ、これも1日の工夫さえあればゲーム展開の興味を引くに違いないと思われる。しかし、全体的には初心者のプレーとしては思わぬハプニングプレーもあって、楽しい研修会であった。この車椅子ハンドボール実技が、大阪高等学校体育教員の組織の中で実施されたのは全国でも初の試みであり、今後、全国的な障害者の普及発展につながる期待が寄せられる企画であったことは評価される。社会体育活動の中で、普及のあり方を考えていく場合、全国都道府県・市・町・村における障害者スポーツのレクリエーション援助活動として、車椅子ハンドボールが導入されていくことを切に願いたい。

さらに、元大阪イーグルスのＯＢ選手の顔も見られ、盛況裡に開催されたことを報告したい。なお、本年は高知県で第2回全国障害者スポーツ大会が関連行事の第57回国民体育大会の会期とは別個に正式競技として開催される。競技数は13競技である。実施競技としての個人競技は、陸上競技（身・知）、水泳（身・知）、卓球（身・知）／サウンドテーブルテニス（身）、アーチェリー（身）、ボーリング（知）、フライングディスク（身・知）また、団体競技としては、車椅子バスケットボール（身）、バスケットボール（知）、グランドソフトボール（身）、ソフトボール（知）、バレーボール（身・知）、サッカー（知）、フットベースボール（知）以上が実施される。

（身）は身体障害者が出場できる競技、（知）は知的障害者が出場できる競技、となっている。

なお、最後に今回の車椅子ハンドボール実技研修会開催の立役者である大門雅人先生（大阪府教育委員会指導主事）は天理大ハンドボール部ＯＢであり、今後も指導的立場でご協力して頂くことが約束されたことは喜ばしく、反省会（懇親会）の中でも力強く感じたことを付記しておく。

トップレフェリー研修会 実施報告

審判部長　斉藤　実

7月20日から22日まで、大崎企業スポーツ事業研究助成財団の助成を得、広島市にて表記研修会を実施いたしましたので、その報告をいたします。

この研修会の目的は、全国大会あるいは日本リーグで、誰が審判してもプレーヤーにとって違和感のないゲーム運営を味あわせてあげられる、というレフェリー界の理想を求めてのものであります。過去4回の研修会と今回の違いは、対象者に参加を義務付けたこと。しかしながら、勤務先での公務・居住地での大会等やむを得ない場合もあり、欠席の場合は所管長のサインを義務付けることとしました。開催地としては下記の3条件をクリアーできる広島市を選択いたしました。

1. 開催地…参加者に実際のゲーム運営(国際試合に匹敵する)が見学できること。また、実技研修のための日本リーグクラスのモデルチームが存在すること。200名近いメンバーの宿舎が確保できること。
2. 時期…各全国大会審判員のノミネートが完了し、国内の全国大会が始まる前であること。
3. 対象者…全国大会担当審判員は勿論、彼らを管理する各全国大会審判長・副審判長並びに技術指導者を対象にすること。

内容は、

[第1日目]

大西専務理事の挨拶、斉藤審判部長の基調報告に続いて高村誠一氏の講演。高村氏はナショナルプレーヤー、大同特殊鋼監督、審判審査委員と歩んだ中でのレフェリーに対する注文を語っていただいたが、ジョークをまじえた話は聞きやすく、受講生に好評であったことがアンケートに現れておりました。続いて新競技規則の解説と運用について、岸本ルール研究委員長に説明していただいたが、今回は単に説明するという形ではなく、質問形式で受講生全員に答えさせる方法をとりました。緊張の中での回答づくりは大変だったと思います。次にパッシブプレーに関して、ビデオテープを基に検討し、規則書に明記されている内容をしっかり把握することを確認しました。ペーパーテスト、島田審査委員が本年度使用したもので難解だったテストを用意しました。最高は満点、しかし、憂慮すべき答案もあり、実際のゲームでとっさの判断ができるだろうかと心配させられる答案もありました。最後に参加者から寄せられた質問に対し、回答を与え18時に終了しました。

[第2日目]

9時より湧永製薬、日新製鋼、高知成年男子の3チームをモデルに、10分間の練習試合を各ブロックから1ペア抽出し実際に吹かせ、1ゲーム吹く毎にプレーヤー・レフェリー・監督と話し合い、それぞれの意見を求めながら観察力を高めました。これが終了した時点で、全員によるクーパーテストを体育館で行いました。午後は、広島国際大会のエキジビションゲーム(抽出ペア)、メイプル対中国(仲田・植村ペア)、全日本対韓国(中国ペア)のレフェリーウォッチング、18時解散。

[第3日目]

エキジビションゲームを前後半2ペアで審判した関係で、2ペアに審判のポイントを何処に置いたか、その考えは実際のゲームに活かされたか等を話してもらいディスカッション、さらにメイプル対中国を吹いた仲田・植村氏に同じく心構えと感想を話してもらいましたが、なかなか話の内容が充実しており、参加者から好評を得ていました。次に、ＩＨＦよりステップの数え方に関するCDを入手したので、これを映写し検討しました。最後に、上海に於いてＩＨＦレフェリーコースを受験した家永・福島ペアに、その状況とＩＨＦの考え方を紹介してもらい、斉藤審判部長のまとめで全日程を終了しました。

前回までの研修会では交通費の補助を出していましたが、今回は約180名の参加者ゆえ、交通費の補助は不可能の状態でした。実際には120名になりましたが、やはり難しい。そこで初めての試みとして、参加者同士で遠くから参加する者に近くの者が少しずつ協力金を出して助け合う形をとりました。自分の費用を出し、その上さらに他人への協力金を出す考えがまだ理解してもらうには時間がかかると思うことと、私自身の手法も未熟な点があり、完全なる理解を得られていませんが、検討を加えよりよい方法を見出すよう努力する予定であります。最後に、広島県ハンドボール協会には多大なご協力を頂きましたことに感謝申し上げ、報告と致します。

第2回西アジア大会参加役員所見

（大会成績、テクニカル・デレゲート、大会レフェリー）

AHF／MC（医事委員会）　西　山　逸　成

クエートで実施された西アジア大会に、2002年４月１日から４月11日まで、同大会テクニカル・デレゲートメンバー（AHF/MC）として、参画した。

また同大会には、日本から大会レフェリーとして、仲田稔・植村彰（IHF国際審判員）両氏も参加し、全期間に亘り、つぶさにAHFの実態に触れることができた。

1　大会状況（表１）

参加チームは６カ国で次の成績結果であった。

１位＝KUWAIT　２位＝SYRIA　３位＝UNITED ARAB EMIRATES　４位＝IRAN　５位＝QATAR　６位＝OMAN

競技方法は、６カ国総当りのリーグ方式で、その成績、レフェリー、テクニカル・マッチバイザーは表１の通りである。

2　テクニカル・デレゲートの運用の実態

メンバーは次の９名（８カ国）で構成され、規約通りオールマイティーで、その任務・役割は、本大会の組織管理の全ての指導・監督・統制、試合当日の各試合審判員及びマッチバイザーの指名、試合日程終了後の選手・スタッフに対する懲罰審査委員会と当該者に対する告達が主たる業務であった。

私は１日１試合のマッチバイザーの担当があったので、自分なりの果実がえられた。

ＩＲＩ　Alireza Rahimi
ＫＳＡ　Nassre Hassan Hilal
ＳＹＲ　Abdulkanim Raee
ＢＲＮ　Radhl Jawd
ＫＵＷ　Khalaf Al Enezi
ＬＩＢ　Ahmed Mahmood Darwick
ＪＰＮ　Issei Nishiyama
ＴＨＡ　Yotsapol Sukumolnan
ＫＵＷ　Nahar Al Asfoor

3　レフェリーの運用の実態

メンバーは、次の８ペアーであり、割り当て試合数は、各ペアー機会均等の配慮があったが、15試合総数のうち、１試合がOMANペアー（IHF国際級）で他の７ペアーは２ゲーム割り当てとなった。決勝戦の担当ペアーのテクニカルミーティングでは、JPNペアーもリストアップされたが、QATARに決定した。

ＩＲＩ　Alireza Soleimani・Dawud Tawakoli
ＵＡＥ　Ahmed Alsuwaidi・Omar Almarzouqi
ＫＵＷ　SamiAbdul Jalil・Ali Abdulhussai Ali
ＣＨＮ　Zheng Zhang・Xizhen wang
ＯＭＡ　Abdulredha Al Sheikh・Abdullah Al Nofli
ＳＹＲ　Bashar Baghati・Yahia Al Kordi
ＱＡＴ　Matar Thani Al Zarraa・Yousef Al Heel
ＪＰＮ　Minoru Nakada・Akira Uemura

4　第２回アジア大会時の競技中の罰則の事例

１）罰則、罰則・罰金の関連規則；

AHF（IHF）競技規則書『(9)試合規則　Rules of the

【表1】

試合番号	チーム試合結果			レフェリー	テクニカル・マッチバイザー	
1	ＩＲＩ	24×25	ＵＡＥ	ＫＵＷ	ＫＵＷ	ＪＰＮ
2	ＫＵＷ	33×22	ＯＭＡ	ＣＨＮ	ＫＳＡ	ＳＹＲ
3	ＳＹＲ	30×18	ＱＡＴ	ＵＡＥ	ＫＵＷ	ＴＨＡ
4	ＱＡＴ	24×29	ＫＵＷ	ＪＰＮ	ＬＩＢ	ＫＳＡ
5	ＯＭＡ	31×41	ＩＲＩ	ＳＹＰ	ＫＵＷ	ＪＰＮ
6	ＵＡＥ	28×29	ＳＹＲ	ＩＲＩ	ＫＵＷ	ＫＳＡ
7	ＯＭＡ	30×37	ＳＹＲ	ＣＨＮ	ＬＩＢ	ＫＵＷ
8	ＵＡＥ	29×24	ＱＡＴ	ＯＭＡ	ＫＳＡ	ＴＨＡ
9	ＩＲＩ	21×28	ＫＵＷ	ＱＡＴ	ＳＹＲ	ＪＰＮ
10	ＱＡＴ	24×23	ＯＭＡ	ＳＹＲ	ＫＵＷ	ＴＨＡ
11	ＳＹＲ	32×31	ＩＲＩ	ＵＡＥ	ＫＳＡ	ＫＵＷ
12	ＵＡＥ	25×30	ＫＵＷ	ＩＲＩ	ＬＩＢ	ＪＰＮ
13	ＱＡＴ	22×30	ＩＲＩ	ＪＰＮ	ＳＹＲ	ＫＳＡ
14	ＯＭＡ	28×30	ＵＡＥ	ＫＵＷ	ＫＵＷ	ＴＨＡ
15	ＫＵＷ	32×25	ＳＹＲ	ＱＡＴ	ＬＩＢ	ＪＰＮ

Game—17条　罰則Punishments』では、基本的には、段階的に警告(Warning)・退場(Suspention)・失格(Disqualification)・追放(Exclusion)が適用されているが、これらの罰則は、競技中罰則を犯した選手やチーム役員が、判定された罰則に対して、スポーツマン的でない行為(ゼスチャー、口頭、暴力的行為)で反抗的態度を示した場合には、躊躇なく「(5)罰則・罰金　Regulations Concerning Penalties and Fines—1条；競技中に課せられる罰則」が適用されることが明記されている。

2）競技中の罰則に対する懲罰審議（テクニカルミーティング）結果の罰則事例；

本大会でも、UAE×SYR戦(Ref　IRN　4/6，No.6 match)で、SYR選手(No.12、No.4)及びコーチに対して、本大会中の出場停止が宣告された。No.12は出場停止1試合(対OMA戦)であるので、残りの対IRN、対KUW戦にはGKとして出場できたが、No.4は、出場停止4試合(残り3試合)であるので、本大会からは、事実上排除されたことになった。コーチも出場停止3試合であるので、終始スタンド指示となり、時折、試合レフェリーのみならず、テクニカルデレゲートから注意されていた。

また、IRN×KUW戦(Ref. QAT　4／8，No.9 match)では、IRNチームのヘッドコーチが残り1試合(対SYR戦、4／9，No.11match)の出場停止が宣告された。

3）懲罰審議（テクニカルミーティング）の内容；

構成員は、我々9名のテクニカルデレゲートの全員出席による審議で、雰囲気としては、毎朝のレフェリー・マッチバイザーの指名よりも、かなり厳しい論議がなされ、最終的には、全員による票決による裁定であるので、私としても、同行の仲田・植村両レフェリーの解説を受けて、競技規則について猛勉強を強いられざるを得なかった。

同ミーティングにおける論議の基本的スタンスは、先ず当該選手またはチームスタッフが、競技中反則を犯し、レフェリーから宣告されたその時の状況(とくに同一の状況における複数の違反)が提示・説明される。その状況認識に出席者全員のコンセンサスが得られた後に、はじめて賦課する罰則内容とその適用規則の論議が始められることになる。

これらの前後の調整の中心的役割は、Mr. Khalaf (KUW)である。

4）賦課される罰則の適用規則『ＡＨＦ規約(5)罰則・罰金−1、競技中に課される罰則』

1条；a)～e)間での罰則を"組み合せて論議しよう"—の合議でスタート。

続いて、適用条項として次の条項を確認・決定するための論議となる。

1条．1．1．＝役員やレフェリーに対する暴力的或いは侮辱的態度。

1条．1．3．＝試合に参加するチーム、役員、人たちによる不適当な行為。

1条．2．　＝一時出場停止を課するについて、次のガイドラインを適用する。
違法行為・・・勧告
出場停止・・・試合数
失格(AHF及びIHF役員またはレフェリーに対する違法行為により)

1条．2．1．＝身振り(ゼスチャー)はしないで、口頭(言語)のみによるスポーツマンらしくない行為。
ａ．一般的(通常的)・・・1試合
＊先述のSYR選手No.12、IRNコーチに各々適用。
ｂ．脅迫的(威嚇的)・・・3試合
＊先述のSYRコーチに適用。

1条．2．2．＝ゼスチャーと言語とを併用したスポーツマンらしくない行為。
ａ．一般的・・・2試合
ｂ．脅迫的・・・3試合

1条．2．3．＝攻撃的なスポーツマンらしくない行為・・・4試合
＊先述のSYR選手No.4に適用。

更には、以上の該当者に1条．3．の罰則及び罰金のガイドラインの適用の意見が提示されたが、票決には至らなかった。

5　大会所見

1）審判と判定

現在日本において、サッカーWORLD CUPが行われており、連日報道の中で、審判関係では、その判定度について論議されているが、FIFA会長談で、"審判の判定問題で、WORLD CUP全試合の5％の判定に議論の余地がある。しかしテクノロジーの導入はしない。人間の判断を機械が否定したらどうなるか？　サッカーは人間がやるからおもしろいのだ"とビデオの導入を否定し、研修などによるレベルアップを挙げている。(読売　6／28／02)

また、選手に対する罰則適用状況をTVで観ているが、準決勝戦(ブラジル×トルコ)でブラジルのロナウジーニョがベンチにいた理由が、前試合の退場処分であることが解り、サッカーも、試合中のイエローカードが、選手の同一の状況における複数の違反として退場が賦課されていることに、ハンドボールとの共鳴感を抱いた。

2）日本のハンドボールレフェリー群にアジア選手権決勝の笛を期待

サッカー日韓W杯の決勝審判団が発表されたが、5名全てヨーロッパ勢であるので、せっかくアジアで実施される

のに何故？とも言いたくなった次第。でもサッカーでは、アジア勢に適任審判は認められなかったからであろう。

日本が、AHFの中で何かの分野で発言権を得ようと思えば、私のような１委員ではなく、数の力と多くの機会利用で、レフェリー群が力をつけ、アジアの中でリーダーシップを取れれば、地位作りへの早道だと考えるので、是非機会をとらえて、厳粛の中にも仲間作りと、トップレフェリーへのチャレンジを念頭に、頑張って欲しい。

３）レフェリーの体力審査への慣れ

今回KUWAITのアジア大会期間中、乳酸値の推移と疲労度について基礎データを測定したが、仲田・植村ペアーやKUWペアーの測定値でみる限り、乳酸値と心拍数の推移は同一傾向であった。従ってIHFでは、定例的に実施しているが、AHFとしても、近時レフェリー審査で、実施の考えもあるようなので、対象者はシャトルランと心拍推移、血圧、乳酸の測定に慣れておけば、本番の時のストレスの軽減に有用かもしれない。

末筆ながら、延期、変更等不確定状況の中で、円滑な渡航・AHF調整を頂いた平賀さんに感謝いたします。

㊟本大会中、次のビデオ撮影しているので、必要があれば、西山まで、連絡してください。
　表１のMatch　No.４、12、13、15
　仲田・植村ペアーのレフリングNo.４、15

◀オフィシャル席

▲Sheikh Tatal会長と西山氏

◀AHFテクニカル・デレゲート

◀仲田レフェリー（KUW×QAT）

◀乳酸値測定

旅の始まりはエモックから

2002.9.29 ➡ 2002.10.12

東京・名古屋・博多発

第14回釜山アジア競技大会観戦ツアー 3日間

大会期間：2002.9.29〜10.14

競技種目：３８種目

大会規模：OCA 全会員国(43ヶ国)

大会場所：釜山(プサン)、昌原(チャンウォン)、馬山(マサン)、梁山(ヤンサン)、蔚山(ウルサン)

（釜山アジアメイン競技場）

日本を応援しよう！！

あなたの応援が
全日本チームをアジアNo. 1 へと導く

東京　出発日・旅行代金（お一人様／大人子供同額）	
出　発　日	旅行代金
9/29,30 発	¥64,000
10/1,3,8,10 発	¥68,000
10/2,7,9,発	¥72,000
10/6 発	¥76,000
10/4,5,11 発	¥80,000
10/12 発	¥98,000
名古屋出発日・旅行代金（お一人様／大人子供同額）	
出　発　日	旅行代金
9/30,10/2,7,9 発	¥65,500
9/29,10/6 発	¥66,500
10/1,8 発	¥67,500
10/3,10 発	¥71,500
10/5 発	¥76,500
10/4,11 発	¥80,500
10/12 発	¥99,000
博多　出発日・旅行代金（お一人様／大人子供同額）	
出　発　日	旅行代金
9/29〜10/12 発	¥51,000

スケジュール

日	行程	食事
1	午前　東京・名古屋・博多出発　⇒【釜山】 午後　釜山到着後　ホテルへ ホテルチェックイン 夕食へご案内 お泊りは釜山観光フェニックスホテルクラスをご用意いたします。 釜山泊	機　夕
2	午前　釜山市内観光 午後　ハンドボール競技場である昌原(チャンウォン)へ移動(約1.5時間) 釜山泊	朝　昼　夕
3	午前　ホテルチェックアウト 釜山市内観光後、空港へ 釜山（釜山国際空港）⇒【東京】 東京・名古屋・博多到着　解散	朝　機

※　上記は大韓航空利用の場合です。日本航空利用をご希望の場合はお問合せください。
※　延泊の場合は１泊お一人様あたり￥１３,０００ＵＰ（２人１室部屋利用）
（朝食・昼食・夕食　各１回、送迎付き）
※　一人部屋追加代金　￥7,000（１泊当り）

＜旅行代金に含まれるもの＞

- ◆ 利用航空会社：日本航空・大韓航空　（博多発はジェットホイル利用）
- ◆ 利用予定ホテル
  釜山観光フェニックスホテル・釜山観光ホテル、国際観光ホテル等
- ◆ 食事：朝２回、昼１回、夕２回
- ◆ 観戦チケット（１試合分）
- ◆ 送迎バス（混乗車）
- ◆ 添乗員は同行致しません。
- ◆ 最少催行人員：２０名以上

ご案内　及び　旅行条件

《旅行代金及び宿泊について》

- ● ホテルは２人部屋をお２人様でご利用いただきます。
- ● 航空機はエコノミークラス利用の場合の大人お一人様の代金です。また、航空運賃は特別航空運賃を適用しています。

《旅行代金に含まれるもの》

- ● 旅行日程に記載した航空機、成田国際空港利用税、航空保険料、バス等利用運送機関の運賃・宿泊料金・食事料金・観光料金（ガイド料、入場料）

《旅行代金に含まれないもの》

- ● 釜山国際空港利用税、超過手荷物料金、クリーニング代、個人的費用等、追加飲食費等、上記日程に記載してないもの、一人部屋追加代金、オプショナルツアー等

《旅行約款》

- ● 弊社の旅行業約款によります。

《旅行契約の解除》

旅行開始日がピーク時の旅行である場合であって旅行開始日の前日から起算してさかのぼって40日目に当たる日以降に解除する場合は旅行代金の	10％
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって30日目にあたる日以降に解除する場合は旅行代金の	20％
旅行開始日の前々日以降に解除する場合は旅行代金の	50％
旅行開始後の解除又は無連絡不参加の場合は旅行代金の	100％

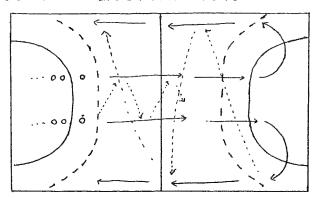
取扱旅行代理店
(株)エモック・エンタープライス
国土交通大臣登録旅行業１１４４号
一般旅行取扱主任者：佐々木雅之
社団法人日本旅行業協会会員
〒105-0003 東京都港区西新橋 1-19-3 第2双葉ビル2階
TEL：03-3507-9777　FAX：03-3507-9771
担当者：江間智仁／尹 碩培

連載

大塚文雄のハンドボール⑥

東京の大塚文雄先生が、指導者のいない高校生に向けてハンドボールの解説書を配布されているとの情報を得ました。せっかくの先生のご努力が少しでも多くの方々に理解されるよう、この解説書を大塚先生のご了解を得まして、機関誌に連載いたします。

(1) 実戦的な動きの中でのパス・キャッチの練習

ゲームの中では立ち止まってパス・キャッチをする場面はほとんどない。パスとキャッチは動きながら、しかもできるだけゲームの動きを取り入れてやろう。

【A】

内側：ラテラルパス

このパスはキャッチした瞬間にパスする技術なので、ボールをキャッチした位置からピッとパスする。

外側：ショルダーパス（普通に投げる）

コントロールをつけてアサッテに（暴投）投げない。

【B】カットインシュートの態勢からパス。
（タイミング・スピード）

・普通のパス（ショルダーパス）

・バウンドパス

・ジャンプパス（ジャンプシュートの態勢から）

ゲームで使われるようなパスすべてを個人の判断で。

【C】リターンパス（クロスして）

（これからのハンドボールは、クロスするプレーが重要になってくる。）

パスはいろいろなタイミングで、いろいろな種類のパスを……。

(2) 戦術のゲームの例

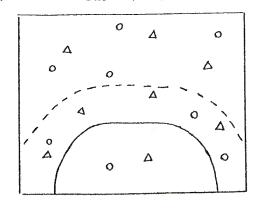
特に、高校に入学してからハンドボールを始めた人達にはこの練習の中に、試合で大切なものが、一杯詰っている。ウォーミングアップを兼ね肩ならしを兼ね、動きを覚え、相手との間合いを覚え、これらを楽しみながら身体で覚えよう。

【A】ダブルボール（8対8）……何人でも良い。

ルール：

両チーム1個ずつボールを持って、マイボールをつなげつつ、相手のボールをインターセプトして、1人が同時に2個のボールを持ったチームが勝ち。

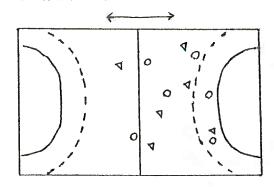
指導者の指示：

・各チームで作戦を考えよ。
　半分はオフェンス……ボールをカットに行く。
　半分はディフェンス……自ボールを相手に取られないように。
・フェイントで相手を抜き、オープンスペースへ動け。
・相手のパスコースを読んで、マイボールにしろ。

【B】パスゲーム（6対6）……何人でも良い。

ルール：

・普通のゲームのように、ボールを運びエリアへボールを持って入ったら、1点。
・時間は、あらゆることに集中させるので、1～2分位。
・パスは制限をつけて（ジャンプパス・バウンドパス・ドリブル無し・試合のように、など）

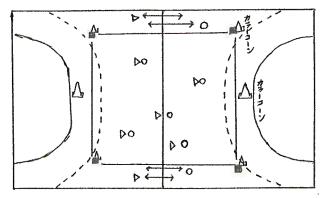
指導者の指示：

・パスした後、素早く目の前の相手を抜くこと。
・ボールは前へ！前へ！
・コート一杯をうまく使え。

【C】マンツーマンゲーム（5対5）

ルール：

・カラーコーンを四隅に置き、この中で5対5のマンツーマンの攻防をする。
・外側の味方にパスしても良い
・7mライン上のコーンにボールを当てれば、チームの勝ち。

指導者の指示：

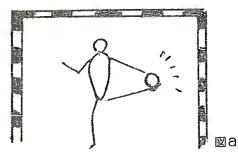
ブロックをして、味方をplayableにせよ。

(3) GK練習とシュート練習

7mライン付近からスピードボールでGKの目を慣らし、反応を早くする。

GKは、ボールに対してすごく集中するので、1回連続10球以内が良い。

左右のコーナーに投げるときは、取れるものなら取ってみろ！ではなく、GKがボールにさわれるか、さわれないかのぎりぎりに投げる。（コントロールをつけて）

(1) 顔面めがけて
(2) 下図（図a）の付近左右連続。（手と脚で反応する）
(3) 左右の上コーナー。
(4) 左右の下コーナー。
(5) 右上、左下コーナーを交互に。（その逆も）
(6) ポストシュート
　（あらゆるタイミングで、いろいろなシュート）
(7) サイドシュート
(8) 中央からミドルシュート。（前にディフェンスを置いて）

図a

(4) 攻撃からディフェンスへ戻り方

君達の日頃の練習を見ていると、味方がシュートを打った後の「戻り」の練習はほとんどなされていない。数少ないハンドボールの指導書にも書かれていない。今の洗練されたハンドボールでは、このことが非常に大切なことで、失点を如何に少なくするかは、この練習にかかっている。

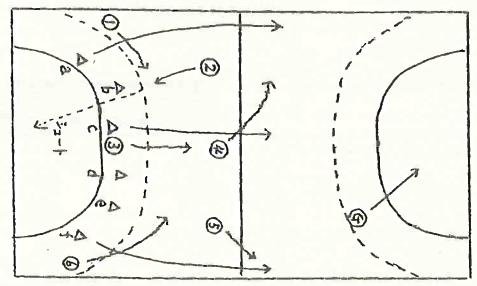
シュートの後、ボールを見ないで戻ってくるチームを時々見かける。(背を向けて戻る)これではＧＫさんがかわいそう。戻りながらボールを取るために相手にプレッシャーをかけよう。すなわち、戻りながら相手のパスコースを読んで、圧力を加えると良い。

☆相手の攻撃に対するディフェンス

②のシュートに対して

- ④、⑤はサイドのａ、ｆの一次速攻を止める。
- ポスト③は自分を守っていたｃに密着して帰る。
- 両サイドとシュートを打った①、②、⑥は二次速攻を妨害しながら帰る。
- 下図の破線付近までは、ファールをしない。(この付近までに当たりに行くとアッと云う間に抜かれてしまう)
- 破線を過ぎたら、相手コートに押し返すくらいにプレッシャーをかける。
- 余裕のあるＧＫはゴールをあけたふりをして、ロングシュートを誘って取る。

この図は、０－６防御であるが、これが１－５であったり、２－４であったりすると必ずしもこのようには行かない。

チームとしていろいろためして、うまく守れるよう練習しよう。

(5) 練習試合

これから練習試合の季節になります。新人戦にむけ新しい課題を見つけ、練習してみよう。例えば、この冊子の積極的なディフェンスとか日頃やったことのない、１－２－３のディフェンスとか、最後に勉強した戻りの練習とか、何かチームの課題や各個人の課題を見つけ、ただ勝った、負けたではなく前向きに集中してやってみよう。

サア、これで新人戦はベスト８かな？　いやベスト４を狙おう。

これを書いていると、次から次へと欲が出てくる。新しい考えの練習（合理的な）はまだまだある。しかし、そろそろ限界……。皆さんのご活躍を期待しています。

特に、ハンドボール専門の顧問の先生のいないチームの皆さん、頑張ってください。

平成14年度 第5回ハンドボール研究集会

表記研究集会が、下記の日程で実施され、小学校ハンドボールに関する興味ある発表と有意義な講義、討論が、多くの小学校教員や指導者を対象に展開されました。そのテーマを「ボール運動教材としてのハンドボールーその5ー」とし、学校体育の中でハンドボールの教材としての有効性が確認されました。実施概要は以下の通りです。

開催日時　7月30日（火）、31日（水）
開催場所　秋田県　秋田大学教育文化学部附属小学校

《実施内容概略》

【30日（火）】

◆開会式　12：30～

挨　　拶　**大西武三**　（財）日本ハンドボール協会専務理事
　　　　　加藤時子　秋田県ハンドボール協会副会長
　　　　　細谷義次　秋田県教育委員会保健体育課長
日程説明　**木谷光男**　第5回研究集会運営委員会副委員長

加藤時子氏

角　紘昭氏

◆講義　12：50～

講師　**角　紘昭**　名古屋市立中川小学校

講義概要

1　ハンドボールとの出会い
愛知に根ざし、高校時代の恩師に触れさせて頂いたハンドボールを大学時代に本格的に取り組み、その後も多くの関わりを持ちながら、小学生を中心に普及に腐心してきた。

2　指導者としてのハンドボール
地域の中で、一つの学校の枠を超えて小学生を募り指導に努めてきた。

3　授業としての体育

4　教材としてのハンドボール
小学校でのボール教材としてのハンドボールの良さを力説。

◆研究・実践報告　14：00～

座長　**佐藤健一**　あきた市立飯島南小学校

1　**高松葉司**　奈良県三宅町立三宅小学校
「ハンドボール型ゲームからハンドボールのゲームへ」
ハンドボール型ゲームとして、的当てシュートゲーム→タッチシュートゲーム→タッチハンドボールゲーム→ポートボールをあげ、さらにハンドボールゲームへと発展させながら、ゲームを楽しみつつ技術やルールを身につけていこうという授業であった。

2　**吉川伸子**　岩手県北上市立和賀西小学校
「低学年におけるシュートボール指導の実践」
単元名「シュートボール」として、小学校1、2年生を対象に実施した授業報告。的当ての技能調査やボール投げの遠投力調査を織り交ぜ、児童の授業への積極的な取り組みのアンケート調査報告やVTRを用いてのゲーム様相の発表であった。

3　**大山あゆみ**　神奈川県中井町立井ノ口小学校
「互いに認め合い、みんなが楽しめるゲームの学習－ルールや場を工夫したハンドボールの学習を通して－」
ラインマンゾーンを設けたハンドボール授業の展開を事前事後の生徒意識の変容調査、ボールの軌跡図、生徒のゲーム記録を元に、様々な授業に関する仮説を立て、その検証をパワーポイントを用いての効率的な発表が行われた。

4　**信原悦治**　岡山県岡山市立大野小学校
「ハンドボールの教材としての可能性を探る－戦術学習を中核とした授業作りⅡ－」
速攻主体のゲームからブロックプレイやポストプレイといった戦術的な動きができるようにした。VTRを交え、小学校2年生の興味ある授業風景が紹介された。

◆**実技講習**　15：30～

大西武三　筑波大学

参加者約80名を対象に、小学生向けの実技指導を90分間にわたり実践指導が行われ、多くの賛同が得られた内容であった。

大西武三氏

高橋健夫氏

【31日(水)】

◆**授業提案1**　9：00～

木谷光男　秋田大学文化教育学部附属小学校

「みんなでハンドボールをうまくなろう！楽しもう！プレイアブルになろう！（3年生)」

常にプレイできる状態にはどのような位置に移動し、パスをし、受けるかを考えながら試合をする。

◆**授業提案2**　10：00～

京極　努　秋田市立日新小学校

「合い言葉はプレイアブル！いきいきハンドボール（4年生)」

3－2の1/4コートを使った攻防などを中心に練習し、その後の試合では、互いに良い面を評価しあいながら、いきいきと試合に取り組んでいる児童の姿が見られた。

◆**講義**　11：00～

高橋健夫　筑波大学

「学校体育におけるボール運動のカリキュラムと指導の在り方」

ボール運動教材としてのハンドボールの価値が強調され、ハンドボールを教えることを脱却し、ハンドボールを通して教えることができる教育的な価値の追求が今後必要となることが提唱された。3大球技と言われるサッカー、バスケットボール、バレーボールの授業としての扱いにくさが指摘され、対比としてのハンドボールの良さを①ボールが操作しやすい、②技能習得が比較的容易であり戦術学習に取り組みやすい、③得点機会が多い等があげられた。

寄稿

バングラデシュでの普及活動

青年海外協力隊ハンドボール派遣　谷平　亘

私は現在青年海外協力隊の隊員として、南アジアの小さな国バングラデシュでハンドボールの普及活動をしています。バングラデシュと聞いて？？な人はたくさんいると思います。バングラデシュは1971年にパキスタンから独立したイスラム国です。今回はそんな国での私のハンドボール普及活動について少し書かせていただきたいと思います。

バングラデシュのスポーツは全体的にレベルが相当低いと言えます。これはハンドボールも例外ではありません。私が考えるこの大きな理由は三つ、一つは気候、一つはベンガル人の性格、そしてもう一つは一番大きな理由・貧困です。一つ目の理由・気候ですが、バングラデシュは熱帯モンスーン気候、雨期・低温期・高温期の三つに大きくわけることが出来ます。ハンドボールのシーズンは７～１０月、気候は雨期です。この国のハンドボールはもちろん屋外で行われます。今私は地方の高校に指導をするために一ヶ月間行っているのですが、一週間のうち五日は雨です。それもどしゃ降りと言えるほどの雨が一日中降ります。そんな中でハンドボールの練習は行われます。初めて練習を見せてもらったときは「これはハンドボールじゃない」と正直思いました。彼らのレベルが低いという以前に、ボールは雨のため片手で持てない、キャッチも普通のキャッチではボールを後逸してしまう、地面はぬかるんでいて走るにしても全く踏ん張りが利かず、そこら中で生徒は転んでしまう。現地コーチが「こういう時はどうやってプレーしたらいいのかな？」と聞いてきても「こんな状況でプレーしたことないよ…」としか言うことが出来ず、練習メニューを考えるのにも頭を抱えます。「雨用のハンドボールが完成しても、それは普通のハンドボールじゃないから世界には通用しないよね」と現地コーチと一緒に苦笑いしています。

そして二つ目の理由・ベンガル人の性格、これにはよく困らされています。彼らは“耐える”という能力が欠けています。しんどいことはできたらしたくない、と言うよりもしたくないのです。そのため練習が始まってすぐはすごく楽しそうにするのですが、少し練習にも慣れてきたと思い、ハードなものをメニューに加えるとすぐに「コーチ…肘をすりむいたから休憩していいかな？」とか「肩が痛くてシュートが打てないよ」と言い出します。これがチームに１～２人ならまだ信じることも出来るのですが、チームの４分の３が一斉に怪我をするのですから信じようがありません。一番驚いたのが「コーチ、お腹がすいて走れないよ…練習休んでいいよね」と一人の選手が言ってきました。一瞬耳を疑ってもう一度聞きなおすと「今日はいっぱい走ったからお腹がすいた、もう動けないよ」と私の方に歩み寄ってきました。その選手はサボりの常習犯で全く信用がいかなかったので、何回も理由を聞きなおしていると横にいたコーチ(過去名プレーヤーだったらしい)が「コーチ！あいつはお腹がすいているんだ！　休ませてあげてもいいよね！」とその選手を休ませてしまいました。いつもはそういった態度に腹を立て怒ってしまうのですが、あまりにも言い訳がかわいいので怒るのを通りすぎて呆れ、コーチの一言で呆れを通り過ぎて笑ってしまいました。これは少し極端な例ですが、これに近いことはしょっちゅう起こります。

そして最後に三つ目の理由・貧困です。これはバングラデシュのどの分野においても大きな問題であると思います。この国の学生たちは自分達の貧乏を悟っています。そして国が貧困を脱出するためには自分達が勉強しないといけない、そういった教育をずっとされているのだと思います。だから小さな頃から学生達はすごく勉強します。学校で良い成績をとらないと進学できないこと、大学を卒業しないと職がないことをこの国の学生達は自覚しています。それは親も一緒です。だから親たちは子供をスポーツの現場に置きたがりません。スポーツをして勉強が疎かになることを非常に恐れています。こういった背景があるものですから、スポーツをする子供というのはごく限られています。さらに頑張って練習に来ることができても、彼らにはモノがありません。ボールが無い、ゴールが無い、シューズが無い。そのため私が今指導している中学生の内の大多数は裸足、ボールは子供用の小さなゴムボール、ゴールは竹を二本立ててそれっぽいものを作ります。「こんな国でハンドボールが発展することはあるんやろうか？」というのが赴任してから今も持っている疑問です。

客観的に見ると、上に挙げたような問題が山積みのバングラデシュのハンドボールです。この国の未来にハンドボールの発展が待っているとは考えにくいのが現状です。しかし現場に立って活動をしていると、そういった問題の解決は二の次なのではないかと思います。この国の人達に必要なものは“自分で考える”ということ。スポーツをやってる最中は頑張るも頑張らないも自分次第。一歩前進するのも現状にあまんじるのも自分の考え一つにかかっています。そういった“自分で考える”という行為をハンドボールを通して知り、自分の生活大きくはバングラデシュの将来に役立ててもらえればと思います。

いろいろ回りくどい表現をしてしまいましたが、今自分が活動をしていて一番楽しいのは、選手たちが自分の成長を自覚して喜んでいること、ハンドボールをすることで純粋に楽しんでいることです。「コーチのあのプレイはどうやってするの？」「練習したいからボール持って帰っていいかな？」という日々の小さな彼らの言葉にハンドボールの普及という大きな目標は霞みます。彼らの厳しい人生の中に“ハンドボールを楽しんだ”という一時期が刻まれれば、私の活動は大成功だと確信しています。

「がんばれハンドボール10万人会」7月新規入会・継続更新会員の紹介

【北海道】笹川賢俊**【青森】**西村光子**【岩手】**上川正二、中島昭博、中島紗衣子、中島　航**【宮城】**加藤宏之、加藤次郎、加藤マツ子**【茨城】**伊藤明美、出頭秀彦**【東京】**安藤純光**【神奈川】**南木雅弘、蒲谷裕正**【山梨】**斉藤節子、滝口　修**【長野】**丸山洋子**【愛知】**熊田祐子**【三重】**手塚則雄、森川正三、玉井良明、玉井路生、玉井陽菜、栗屋敏則、野嶋智次、矢野充彦**【大阪】**姫田晶友、宮崎　寛、東　嘉伸、久保義雄、田中幸二郎、津田潤平、奥浜　清、土井秀和、金沢加代**【山口】**藤長美智子**【愛媛】**村上純也**【佐賀】**高橋洋治、南里末一**【長崎】**吉岡博信

＊日本協会からのお知らせ＊

海外交流届出について

従来から日本協会におきましては、ハンドボール競技の海外遠征および交流の実施をする場合、事前の届け出をお願いしております。

つきましては、下記要領にて必ず日本協会まで、届出をお願い致します。

（届け出記載事項）

○　遠征・交流目的
○　日程
○　派遣先
○　宿泊地・宿泊所
○　役員・選手名簿
○　費用
○　その他

（届け出事例）

日本ハンドボール協会会長　殿
　茨城県ハンドボール協会
　会長　　会田真一
第９回茨城県少年選抜ハンドボール海外(韓国)親善交流選手団派遣について(届)

標記の事について、下記の通り実施しますのでお届けいたします。

１　主　催　茨城県ハンドボール協会
２　後　援　親善交流参加父母の会
３　目　的　県内高等学校のハンドボールの普及と強化を主眼とし、国体選抜選手団の充実、国体での上位入賞と指導者の資質の向上、国際親善交流を通して、国際感覚を体験・学習する事を目的とする。
４　日　程　平成14年８月14日（水）～17日（土）
５　派遣先　韓国ソウル市
６　宿泊地・宿泊所　　別紙
７　役員団・選手団　　別紙
８　その他

日本協会事務局移転

日本協会の事務局は、８月10日に岸記念体育会館の３階から５階へ移転致しました。電話、ＦＡＸには変更ありません。

エスエスケイより寄付金贈呈される

株式会社エスエスケイでは、例年体育振興の発展のため利益金の一部をスポーツ関係団体に寄付を行っています。本年度は、（財）全日本軟式野球連盟をはじめ、７団体に寄付が行われました。

(財)日本ハンドボール協会も贈呈対象団体のひとつとなり、去る７月15日(月)に、岸記念体育会館にて贈呈式が行われました。

出席者は、(株)エスエスケイから佐々木恭一代表取締役社長、二宮泰二専務取締役営業本部長、中村之保常務取締役事業本部長など６名。日本協会からは西村事務局長が出席しました。

★編集後記★

ハンドボール生活17年。いろいろな「チーム」に関わってきた。その運営が監督主導型であったり、逆に選手主導型であったり。伝統があり競技志向が強いチームや、メンバー構成が流動的でレク的雰囲気を持ったチーム。監督のいない選手や選手のいない監督であった時期もある。共通して言える事はどこかに必ず「理解者」や「仲間」がいたから続いたという点である。

現在、高校生の指導に携わっている。夏休みを利用して合宿を行なったが、10人近くの選手が一つの部屋で寝泊りした。ある晩、一人の選手が、寝言で「イチ、ニ、サン…」という準備運動の掛け声を叫んでいたという笑い話があった。指導者とチームメイトに恵まれず、それでもハンドをやりたいと単独参加を申し出た他校の生徒である。

裾野を広げるための試みは各地で始められているが、事態は深刻であると痛感させられた。とりあえず考えよう、彼のような選手が「チーム」の中で大きな掛け声を出してプレーできるようにするには…。（A・M）

HAND BALL CONTENTS Sep

（登録チームの購読料は登録料に含む）

2002コートの主役

PKCH3-AD ¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革
パ

PKCH2-AD ¥4,500 パ

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四三二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十四年八月二十六日印刷 平成十四年九月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振 〇〇二一〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円